

【光軸】

■ 光軸とは？

- ・ビームセンサ(ファイバセンサ、レーザセンサを含む)の投光部から照射される信号光の拡がりのことを、光芒と言います。その光芒の中心軸を、光軸と言います。

■ 光軸は、傾いている？

- ・理想的な光軸は、検出面に対して垂直になっています。(図1)(これを、特に機械軸と呼ぶ場合があります。)
- ・しかし、実際のビームセンサ(ファイバセンサ、レーザセンサを含む)では、いずれかの方向に光軸が傾いており、その方向・傾き角度には商品個々のバラつきがあり、一様ではありません。また、光軸の傾き方向や傾き角度の度合いは、一般的には仕様で規定されていません。(図2)
- ・このため、機械軸で透過型または、ミラー反射型ビームセンサ(ファイバセンサ、レーザセンサを含む)の取り付けの設計を行なうと、十分な入光量を確保できなかつたり、光軸調整ができなくなる場合があります。(図3)

したがって、透過型または、ミラー反射型ビームセンサ(ファイバセンサ、レーザセンサを含む)を取り付ける場合、光軸で光軸調整ができるように、取り付け角度を微調整できるような配慮が必要となります。(図4)

(具体例:センサメーカーが用意しているセンサ取付金具(多くの場合、別売となっている)を使用する。(図5))

狭光芒(狭視野)タイプのセンサを使用して高精度な検出を行なう場合には、特に配慮が必要です。

(注):センサ取付金具、ファイバ取付金具は、投・受光器両方共使用してください。
受光器の信号光入射可能範囲(視野角)とその中心軸にも傾きがあるためです。

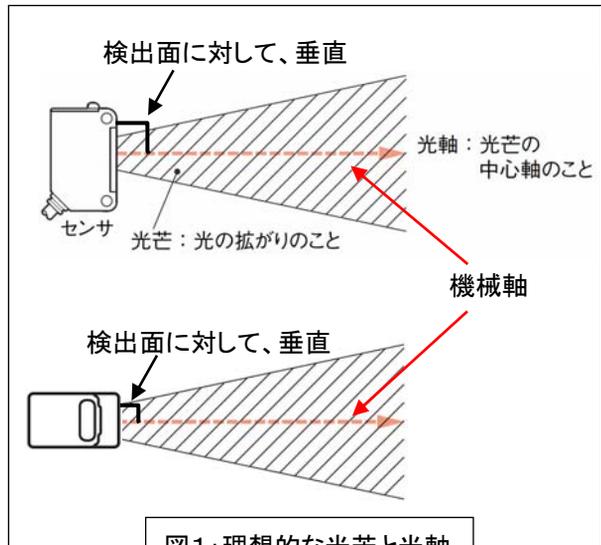


図1:理想的な光芒と光軸

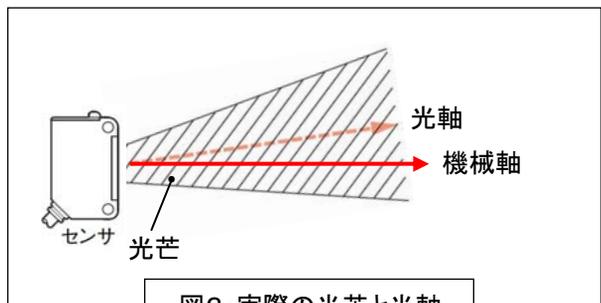


図2:実際の光芒と光軸



図3:機械軸で光軸調整した場合

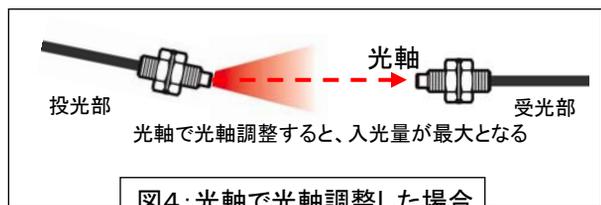


図4:光軸で光軸調整した場合

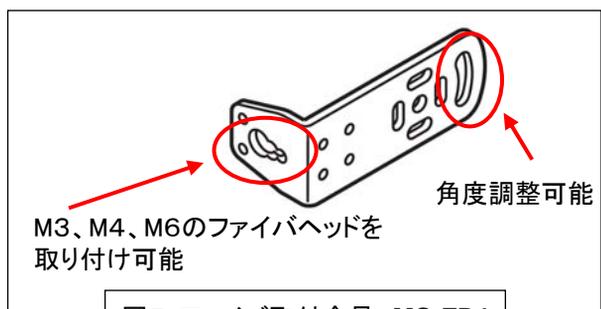


図5:ファイバ取付金具 MS-FD1

■ 光軸の傾き角度(曲がり目)を極力抑さえた超品質ファイバ、新標準ファイバ登場

- ・最近では、光軸の傾き角度(曲がり目と呼びます。)を極力抑えた、超品質ファイバや新標準ファイバも開発されています。
これにより光軸調整が一段と楽になり、検出精度が向上します。

超品質

- アンプFX-500シリーズとの組み合わせで光量の安定性に優れ、デジタル管理がしやすいファイバです。
- 光軸の曲がりやズレが極めて小さく安定した検出をご提供。



投光量が安定±10%以内

ファイバ素線の投光量バラツキを±10%以下に抑制し安定した検出を実現します。

- 光軸曲がり目：透過型±2°以内、反射型±3°以内
- 光軸のセンタリング精度：±150μm以内



●技術に関するお問い合わせは コールセンター ☎0120-394-205 ※サービス時間/9:00~17:00(12:00~13:00、当社休業日を除く) ●FAX ☎0120-336-394

■発行 パナソニック デバイスSUNX株式会社 マーケティング統括部

[〒486-0901]愛知県春日井市牛山町 2431-1 panasonic.net/id/pidsx

本書からの無断の複製はかたくお断りします。

2012年7月 No.218 Ver1.0